

■平賀源内(風来山人・福内鬼外) マルチ人間の典型で、多くの発明・創出・著作をしたが、世になじまず思われぬ最期に。

ひらがげんない

祖徠没・・・1728＝ 讃岐国志度浦の高松藩御蔵番で足輕並ながら農業を営んで裕福だった白石茂左衛門の三男に生まれる。

享保大飢饉・1732＝ 4歳：

幼時から利発で機智に富み、絵がうまく手先も器用で、遠祖が「太平記」の英雄平賀国綱、直接の先祖は武田信玄に滅ぼされた信州の勇将平賀源心という家系に誇りを持ちながら、

・・・1737＝ 9歳：

♫船出没始 1739＝11歳： 天神様の掛軸にお神酒を供えると赤く変わるカラクリ作るなどし、村民から“天狗小僧”と呼ばれて育ち、
・・・1740＝12歳： この頃から、 阿野郡陶の親戚三好喜右衛門から本草学と医学を学び、焼き物の手ほどきを受け、

高松藩医久保桑閑からも医学と本草学を学び、菊池黄山について儒学を学ぶ。

徳川吉宗隠居1745＝17歳： 俳句にも親しみ始め、志度俳諧主流の芳山グループに入り、李山の号で活躍。

菅原伝授・1746＝18歳： 才能を認められ、名藩主松平頼恭の御薬坊主となって飛躍の機会を得、

既に先祖の名国倫を継承しており、

・・・1749＝21歳： 父が死去して家督を相続すると、平賀姓を名乗る。

徳川吉宗没・1751＝23歳：

・・・1752＝24歳： 藩主の内命を受けて、長崎へ遊学すると、蘭学への関心と野望が一気に高まり、

薩摩藩工事・1753＝25歳 帰藩すると、

山脇東洋解剖1754＝26歳 病気を理由に、妹里与に入婿をさせて、家督を譲り、大阪に出て戸田旭山らに医術、本草学を学ぶ。

自然真営道・1755＝27歳：

・・・1756＝28歳： 志度の俳人仲間と有馬温泉に遊び句集「有馬紀行」を編む。江戸に出るや田村藍水について本草学を学ぶ。

源内物産会・1757＝29歳 林家に入門し、聖堂に寓居。*師の田村藍水を説いて、第1回薬品会を開催させ、物産会の幡矢となる。

1758＝30歳 師主催の第2回薬品会に初出品し、

大式政治批判1759＝31歳： 第3回薬品会は自ら主催して多数出品。電気学を唱える。

大岡忠光没・1760＝32歳： 藩主に随行して高松に帰国、途中紀州の物産調査。

・・・1761＝33歳： *オランダ商館長江戸参府に際し、その宿舍長崎屋を訪問、医官パウエル、源内の博識に感じ、オランダ博物書を贈る。スヴェールツ「紅毛花譜」を入手。高松藩を辞するが、仕官御構いとなる。暇つぶしに書いた随筆「木に餅の生る弁」が人気を呼び、以後、次々執筆。幕命によって伊豆へ行き、下剤原料芒硝を採取。

・・・1762＝34歳： 芒硝を田沼意次に献上。湯島天神前で第5回となる東都薬品会開催し大成功。「紀州産物志」執筆。

・・・1763＝35歳： 5回の物産会を基に「物類品鑑」を出版。戯作「根南志具佐」前編・「風流志道軒伝」刊。賀茂真淵に入門。

加賀千代句集1764＝36歳： 「火流布(石綿)」を製作、

蘭銭初輸入・1765＝37歳： 「火流布略説」「湊陰隠逸伝」。目黒行人坂大火で留守宅とともに研究資料を失い、参府の蘭人と交わって、

久留米藩工事1768＝40歳： 以後4年間、ドドネウスの「紅毛本草」などの蘭書を集めるが、蘭語学習の労をいとい、

・・・1770＝42歳： 「タルモメートル」(寒暖計)を製作。「根南志具佐後編」はベストセラーとなる。

*田沼意次の世話で、長崎に赴いてオランダ通詞に翻訳を依頼。浄瑠璃「神霊矢口渡」「弓勢智勇湊」を執筆、江戸外記座で上演。しかし、思うにまかせず、学問的にも生活的にも行きづまった。そのため企業家に方向転換して輸出用の陶器製作を計画し、あるいはメンヨウを飼育して毛織物を試作、

田沼意次老中1772＝44歳：

大原騒動・・・1773＝45歳： 秩父、多田、

解体新書・・・1774＝46歳： 「放屁論」成る。「里のをだ巻評」刊。秋田の鉱山の採掘に手を出したが、いずれも失敗に終わる。生活に窮してみずからを“貧家銭内”と称し、磁針器・平線儀・火流布・寒暖計・菅原櫛・金唐革・エレキテルなどの細工物を作って急場をしのぐ。

雨月物語刊・1776＝48歳： 「力婦伝」「天狗騒駭鑑定縁起」成る。エレキテル試作完成。金唐革や菅原櫛を発売するも一時的流行。

・・・1777＝49歳： 「放屁論後編」刊。

♫船蝦夷来 1778＝50歳： 「菩提樹の弁」「飛んだ噂の評」成る。

源内獄中死・1779＝51歳： 「金の生木」成る。一生独身で通したが、*思い違いから門人を殺傷、その際の傷がもとで、獄中で没した。